

令和7年度 教科研修会Ⅱ 国語科 授業の様子

単 元 名	現代社会の状況と重ね合わせながら読む『挨拶—原爆の写真に寄せて』		
授 業 学 級	3年B組 (39名)	授 業 者	村田 茜
主 眼	この詩を通して作者はどのようなことを伝えようとしたのか考える場面で、前後の表現をもとに使われている言葉の意味と表記の違いに着目して、表現の解釈を友と意見交換することを通して、複数の表現の解釈を組み合わせる学習問題に対する自分の考えをもつことができる。		

【本時の様子】

「原爆が落ちた当時と戦後数年たった後と今とを対比しながら伝えたいことを表現している。」と考えた生徒は、「あ、」という冒頭の表現から、当時の人々と写真を見つめる今の自分たちに共通する点があると捉え、「日常が続くことが当たり前だと感じていた当時の人々のように今の自分たちも油断しており、このままでは戦争という悲劇を繰り返すということを伝えたい。」と自分の考えをまとめ、全体追究の場で意見を発信しました。

授業後半では、『目の前に』や『手の中に』、『毎朝』という表現からも、今の私たちと近いところに戦争の芽はあることを表している。「繰り返し登場する『やすらか』『美しい』『油断』という言葉からも、当時と今の状況が重なっていることが分かる。」と様々な表現から詩全体のメッセージを考える生徒の姿がありました。

次時は、詩から受け取ったメッセージを踏まえ、自分自身は『平和』についてどう考えるか、対義語を視点を追究していきます。実は捉えが曖昧なまま使っている『平和』の定義について、対談を通して捉え直していく過程を生徒と共に歩みたいと思います。



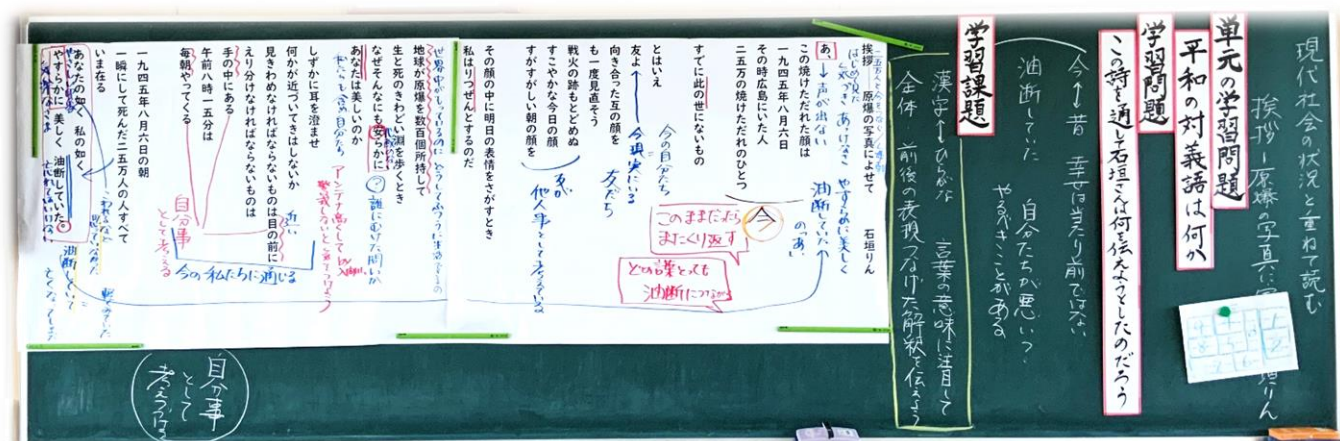
グループ追究の様子



全体共有の様子



意見交換の様子



本時の板書